

ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES vol.12

堀江和真展「にゅい な テラス」

Kazuma Horie Exhibition

開催日時：2024年7月2日（火） - 7月21日（日）10:00-18:00

会場：象の鼻テラス



堀江和真
「にゅい な テラス」 Photo: 東間嶺

象の鼻テラスでは、日常的にアーティストの表現に出会う機会の創出を目指した展示シリーズ（ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES）を2020年よりスタートさせました。この度、6月15日（土）から7月21日（日）にかけ、第11弾、12弾として、2組のアーティストの展覧会を続けて開催します。

第12弾でご紹介するのは、堀江和真です。堀江は、描く行為を分解し、組み立て直すことで作品を生み出す作家です。キャンバスに絵の具を置くような感覚で空間にオブジェを並べ、一つの“絵画”作品にします。そして、オブジェを介在させ来場者との対話や行動の創造を試みます。展示期間中は、堀江の作家仲間らも集いマルシェやワークショップを繰り広げ、象の鼻テラスを堀江の世界観で包み込みます。

ぜひ、この機会に取材・掲載のご検討をお願い致します。

開催概要

タイトル： ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES vol.12

堀江和真展「にゅい な テラス」 Kazuma Horie Exhibition

会期： 2024年7月2日（火） - 7月21日（日）10:00-18:00 ※象の鼻テラスの開館時間に準じます。

会場： 象の鼻テラス

料金： 無料

主催： 象の鼻テラス

協力： 一般財団法人カルチュラルライツ、Teracollective

取材に関するお問い合わせ

象の鼻テラス 大越 E-mail: press@zounohana.com | TEL 045-661-0602 | FAX 045-661-0603
〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目 | WEB <http://www.zounohana.com>

見どころ

堀江は今回の展覧会で約50点もの作品を展示します。それらを、「箱庭」をつくるように空間に配置し、来場者に追体験してもらうことがねらいだと言います。一部の作品は、来場者が触れたり、また手を加えることができ、そこで生まれた変化に対し、作家自身も応答するかのように表情を変化させることで、来場者とオブジェを媒介にした対話を試みます。堀江は展示期間中、不定期に会場に滞在します。



《イメージを置く》



《small good things》



《ア デイ イン ザ ライフ》



《よつあし》

（展覧会開催によせて：象の鼻テラス アートディレクター岡田勉）

昨年夏、横浜で初めて開催された大規模な国際アートフェア「Tokyo Gendai」に合わせて象の鼻テラスで「スナックゾウノハナ」を開催。その中で横浜にゆかりのあるアーティストを対象に行った「相談会」に堀江さんは訪れ初めてお会いした。

堀江さんが携えてきたポートフォリオを拝見すると、静かに作品を鑑賞するばかりではなく、多くの場合、彼と人々との間に彼自身の制作した作品、オブジェが介在し、対話や行動が創造されているのが見てとれた。そして、それはギャラリーなど本来アートの展開される場所ばかりではなく各所で自在に展開されている様だ。

彼が期待するのは、「それ」によってもたらされる想定外の人々の行動や可能性のように思える。「それ」はその効果を測る原器のような、「それ」から喚起される人々の持つ潜在力を促す媒介のようなもの。もはやアートと一括りにできないようなある種の気配を帯びた、夥しい数の形、色彩、形状をもつ「それ」。

私達、象の鼻テラスはアーティストを市民、観客のよき伴奏者と捉え多様な事業を展開しているが、彼の創作活動が私達のコンセプトと非常に親和性が高いと感じた。

現在、巷ではアート流行りの様だ。アートフェアやオークションを中心とした投機的な視点から、はたまた商業施設や地方自治体などでは創作体験を促すワークショップや公共空間を彩るパブリックアートなど、アートは私達の暮らしの中に自然に入り込んでいる。もちろん、アートが社会化し、暮らしや社会を豊かにする状況を夢見てきた私にとっては待ちに待った状況といえる。しかし、それはアートと社会にとっての理想郷と言えるかという首を傾げてしまう場面にも多く出くわす。

コロナ禍を起因として、公共美術館などの事業費、購入費が減少しているという。SNSで話題にならない、大量動員がもたらされない、本質的な言わば地味な事業には予算が付かない。

また、あたかも消費財としてアートが使われているような状況も度々目にする。

一方、彼の地では戦争や紛争、激甚化する自然災害など様々な危機的な状況も後を絶たない中、今日の享乐的とも言える状況には無力感に苛まれる。

時代の要請がそうであるなら致しかないと言えるが、暗部に光を当て、時代をつなぐ研究や小さな動きをきちんと注視し地道に記録する態度だけは怠りたくない。

今回の展覧会では、彼が描いた多数の多様なドローイング、オブジェを空間全体に展開し、ある種の創造の場を創りたいと言う。私からのリクエストは過去15年の象の鼻テラスの活動の中で最多の出品数の展覧会としたいとお願いした。もちろん「それ」に触れ合う人と彼らにもたらされるであろう非日常的な経験を積みたいと言う思いからだ。

形容し難い「それ」が喚起する価値や意味が、人々に何をもたらし、行動たらしめるのか。いまから大変楽しみだ。

関連イベント

Tokyo Gendai 連携 特別夜間開館

開催日時：2024年7月5日（金）、6日（土）10:00-22:00

横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）で行われる「Tokyo Gendai」の開催に合わせ、象の鼻テラスでは、7月5日、6日は延長開館します。作家が滞在する時間帯もあり、交流の場を設けます。

※6日は特別メニューが登場する象の鼻カフェやDJタイムを楽しむ「スナックゾウノハナ」を同時開催。

移動美術館アート・トラック出張展示（企画・運営：一般財団法人カルチュラルライツ）



開催日時：2024年7月13日（土）、14日（日）10:00-18:00

（ワークショップ）11:00-16:00

会場：象の鼻パーク / （ワークショップ）象の鼻テラス

参加アーティスト：木村桃子、黒岩まゆ

ワークショップ参加費：800円

作品展示可能な壁面を持った特注のトラックで、児童養護施設や公園、小学校、各種イベントなどに出張し、鑑賞者がスタッフと話しながら作品鑑賞できるよう運用する移動美術館プロジェクト。木彫作家の木村桃子、現代美術家の黒岩まゆの作品展示を行います。象の鼻テラス内では関連したワークショップを実施。

アートマルシェ



開催日時：2024年7月13日（土）、14日（日）11:00-16:00

会場：象の鼻テラス

参加アーティスト：朝田明沙、カニ、黒岩まゆ、チバサヤカ、chanchan、西村卓、Re arts Garden
象の鼻で過ごす幸せな休日テーマに集う、週末のマルシェ。今回は堀江の作家仲間が集う特別なマルシェを開催します。

コト・モノの交換「Really Really Free Market（リアリー・リアリー・フリーマーケット）」（企画・運営：Teracollective）



開催日時：2024年7月15日（月・祝）11:00-16:00

会場：象の鼻テラス

参加アーティスト：朝田明沙、飯島剛哉、今井しほか、カニ、かずさ、ソガン先生、なかだゆか、埜口琴理、ミコ（巫女）とよんでください、武藤祐二、ヨゴレネコノメ、Re arts Garden
出店者が用意した様々なモノやスキルや情報が、お金ではない「なにか」によって交換されていく「Free=無料」なマーケット「リアリー・リアリー・フリーマーケット」。

アーティストプロフィール



堀江和真 / Kazuma Horie

1981 生まれ。幼い頃から絵を描くことを好み、現在に至る。その表現は平面のみならず、廃材やマグネットなどを使ったユニークな作品を得意とする。文系大学卒業後、画材屋に勤務。アーティストを志すという異色の経歴を持つ。東京、神奈川を中心に精力的にアーティスト活動を継続中。2013年より子ども絵画造形教室「アトリエくま」を主宰。

象の鼻テラスについて



象の鼻テラスは、横浜市開港150周年事業として、2009年6月2日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースとカフェを併設したレストハウス（休憩所）としてつくられ、横浜市の都市ビジョン「文化芸術創造都市」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、多ジャンルのアートプログラムを開催しています。象の鼻テラスは横浜市の委託により、スパイラル/株式会社ワコールアートセンターが運営しています。